

< 豪雨の概要 >

2006年7月15日頃から、梅雨前線が中国、北陸、中部地方付近に停滞し、断続的に豪雨をもたらした。

18日から19日にかけて、島根、福井、長野などで、主に土砂災害による人的被害や家屋の損壊が発生した

最も被害が多かったのは長野県で、11名が死亡または行方不明、床上浸水1043棟などとなっている。

長野県で直接的に豪雨災害によって10名以上の被害が生じたのは1981年以降のことであり、浸水被害も1981年8月、1983年9月の事例に匹敵する規模になるものと思われる。

諏訪市では、諏訪湖周辺、諏訪湖に流入する河川が増水し、家屋が浸水、道路がいたるところで冠水した。7月に予定された「諏訪よいてこ」をはじめ、7月後半にかけて予定されていた様々なイベントが中止となった。



冠水した諏訪市小和田南交差点付近 (2006.7.19)

19日18時ころの主な市内水没区域

上諏訪地区 中浜、湖柳、衣の渡、西大手、大手1・2・3、高島町、弁天1・2・3、末広、湯の脇1・2・大和5の一部、富浜、浜町
 湖南地区 南真志野、北真志野
 中州地区 福島新町、北福島 ほか



2006.7.19 諏訪市大手町



2006.7.19 諏訪市並木通り交



2006.7.19 諏訪市湖明館通り付近



2006.7.19 諏訪市諏訪湖畔ヨット



2006.7.19 諏訪日赤病院前道路・諏訪湖畔

[[諏訪サブリ](#)]